

第32回「ハートミーティング」意見交換の内容について

「京のみどり明日の美^{みりょく}緑研究会」プロジェクトチーム

★参加メンバーからの主な声

- 「質の良い緑化とは何か。」を課題に、「顧客は市民の皆さんをはじめ、京都を好きでいてくれる世界中の人々」との大きな視点に立って、緑の魅力向上に取り組んでいる。
- 公園を新たに作ることも必要だが、今あるものを有効に利活用していくことも大切である。市民の皆さんに愛着を感じていただき、地域の顔となるような公園づくりをしていきたい。
- ある公園では、地元小学生ら市民の皆さんと清掃やペンキ塗りなどのリニューアルの取組を行った。大変であったが、子供たちが楽しそうに生き生きと作業している姿を見て、我々職員自身が市民の皆さんとの協働を身をもって実感することができ感動した。
- 一方、市民の皆さんからは、落ち葉等に関する苦情をいただくこともあるが、市全体を視野に入れた作業の必要性等を説明すると、最終的には御理解いただける。公共財である「緑」に対する市民の皆さんの意識の高さを痛感する。
- 梅小路公園にある「いのちの森」は、森と都市をつなぐ重要な役割を果たしているが、これまで16年間にわたり市民ボランティアの方が植物や鳥などといった生きもの等のモニタリングをされている。市の大切な財産を行政と市民の方が一緒になって守り育てている、まさに「共汗（きょうかん）」の取組であり、今後とも一層大切にしていきたい。

★市長からのコメント

- 山紫水明の景観に代表されるように、「木」は、京都のまちの財産である。木の文化を大切にしたい。
- 「格」という字は、一本一本の木を表している。まさに街路樹は、京都の都市格を上げてくれるものであり、皆さんには、そうしたことに繋がる大切な仕事をいただいている。
- 「世界中の人が顧客」との話があったが、さらに言えば、顧客は「未来」である。「川端」や「天神川」，「洛西ニュータウン」などの見事な桜も、皆さんの先輩たちが、将来を見据えて計画的に木を植え始めたからこそ実現しているものである。いろいろな規制等もあろうが、これからは皆さんが、未来の京都のために可能な限り、木を植え育ててほしい。
- ヨーロッパの「公園」に対して、日本では古くから「鎮守の森」という言葉がある。そこは「社」を中心とした地域の人々がみんなで守り、集う場所であった。京都の緑化を進めるに当たって、こうした考え方を改めて取り入れてみるのも必要ではないか。
- 今あるストックを最大限に活かすことも大切である。岡崎公園や梅小路公園などの魅力を一層高める「緑」のあり方について、柔軟な発想で、様々なアイデアを出してほしい。